

平成25年 3月11日

風評被害に関する消費者調査の結果等について

～食品中の放射性物質等に関する意識調査～

消費者庁では、消費者への食品中の放射性物質に関する理解増進のための取組を一層推進することとし、庁内に「食品と放射能に関する消費者理解増進チーム」を設置し、現場の意見を把握するとの観点から、生産者を含めた事業者に対するヒアリングや消費者の意識調査等を行っています。

今般、そのうち、被災地域及び都市圏の消費者を対象とした意識調査の結果がまとまりましたので、お知らせします。

今後、詳細な分析を行うほか、事業者ヒアリングの結果等も踏まえ、消費者理解増進のための施策等に活用していく予定です。

本件に関する問合せ先

消費者庁消費者安全課

石川、影山、岸、小谷

TEL : 03(3507)9201

FAX : 03(3507)9290

H P : <http://www.caa.go.jp>

g.anzenshoku@caa.go.jp

風評被害に関する消費者意識の実態調査

平成25年 3 月 11 日
消費者理解増進チーム

1 概要

(1) 調査目的

東京電力福島第一原子力発電所の事故は、これまでに類を見ない大規模なものであり、多くの国民に不安を与えている。このため、科学的知見に基づき食品中の放射性物質に関する基準値が設定され、合理的な検査体制の下、食品の安全が確保されている。

しかしながら、被災県産の農作物を中心に買い控える等の消費行動が見られる状況である。

このため、福島県を含めた被災県の農林水産物等について、消費者が買い控え行動をとっている場合の理由等を調査し、今後のリスクコミュニケーションでの説明内容をはじめとする各般の風評被害対策に役立てることとする。

(2) 調査期間・対象・調査方法・対象地域

- ① 平成25年2月14日(木)以降実施
- ② 調査対象:20～60代の男女、インターネットモニター(有効回答数5,176人)
- ③ 調査方法:インターネット調査
- ④ 対象地域:被災県及び被災県産農林水産物の主要仕向先県等
(岩手県、宮城県、福島県、茨城県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、愛知県、大阪府、兵庫県)

(3) 回答者の属性

- ①性別:男性50.4% 女性49.6%
- ②年齢:20～60代の男女

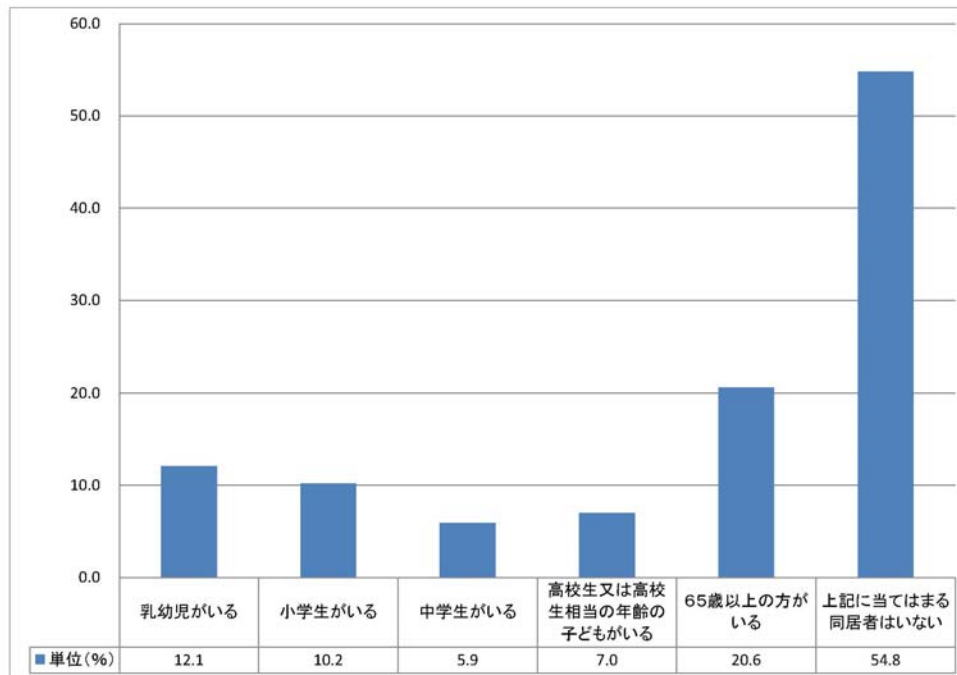
男性					女性				
20代	30代	40代	50代	60代	20代	30代	40代	50代	60代
8.3%	10.9%	11.3%	9.3%	10.6%	8.2%	10.7%	10.8%	9.0%	10.9%

③同居家族について:

乳幼児がいる	小学生がいる	中学生がいる	高校生又は高校生相当の年齢の子どもがいる	65歳以上の方がいる	左記に当てはまる同居者はいない
12.1%	10.2%	5.9%	7.0%	20.6%	54.8%

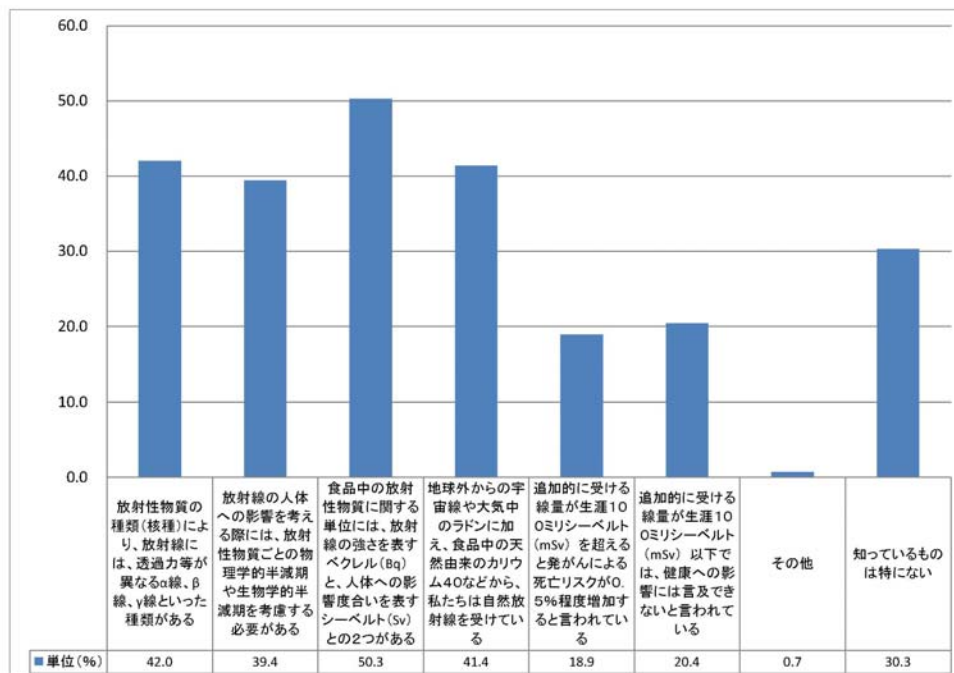
2 意識調査データ篇

Q1 同居している家族について、お答えください。(回答はいくつでも)(N=5176)



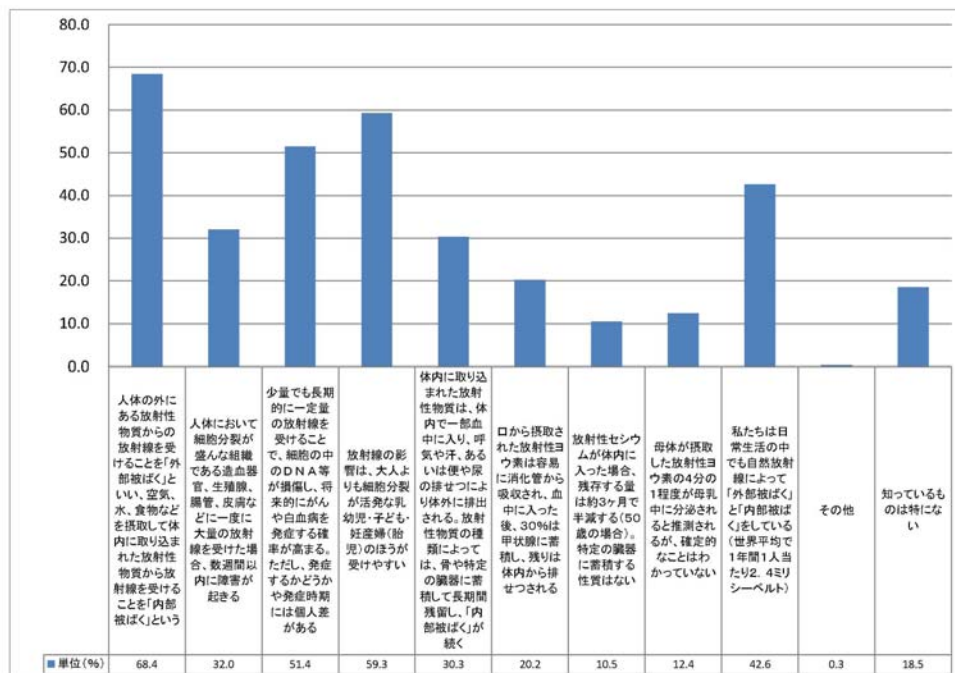
Q2 放射線、放射性物質、放射能について、あなたが知っていることをお答えください。(回答はいくつでも)(N=5176)

放射線等に関する知識については、「単位としてベクレル、シーベルトについて知っている」と回答した方が50.3%、「放射線にはα線、β線、γ線といった種類があることを知っている」が42.0%、「自然放射線を受けていることを知っている」が41.4%である。



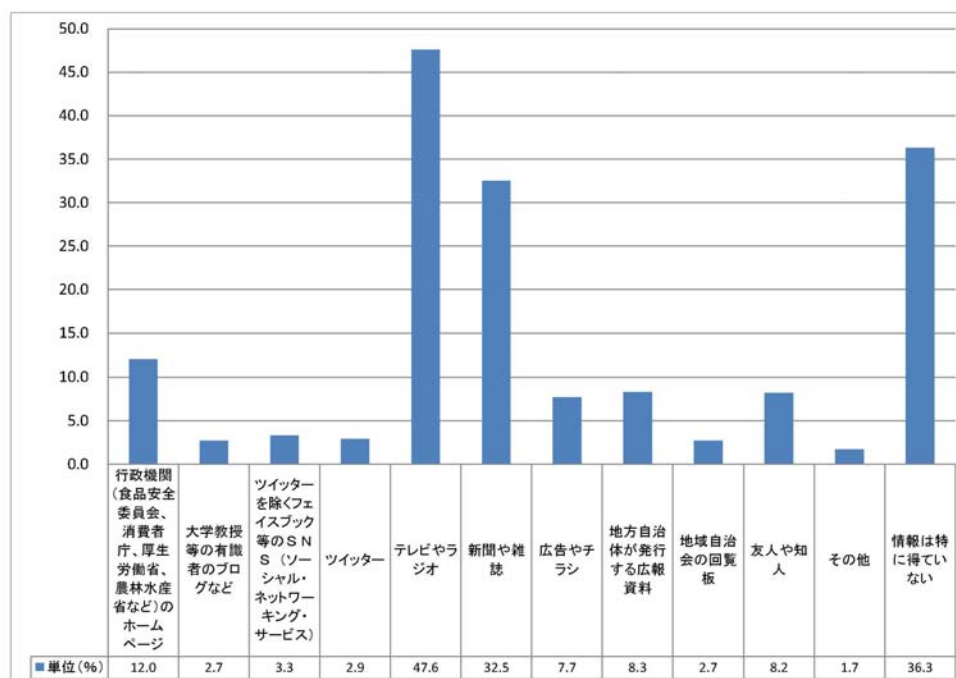
Q3 放射線が人体に与える影響について、あなたが知っていることをお答えください。
(回答はいくつでも)(N=5176)

放射線の人体影響については、「外部被ばく、内部被ばくを知っている」が68.4%、「放射線の影響は大人より子ども、妊産婦のほうが受けやすいことを知っている」が59.3%、「日常生活の中でも自然放射線によって被ばくしていることを知っている」が42.6%である。



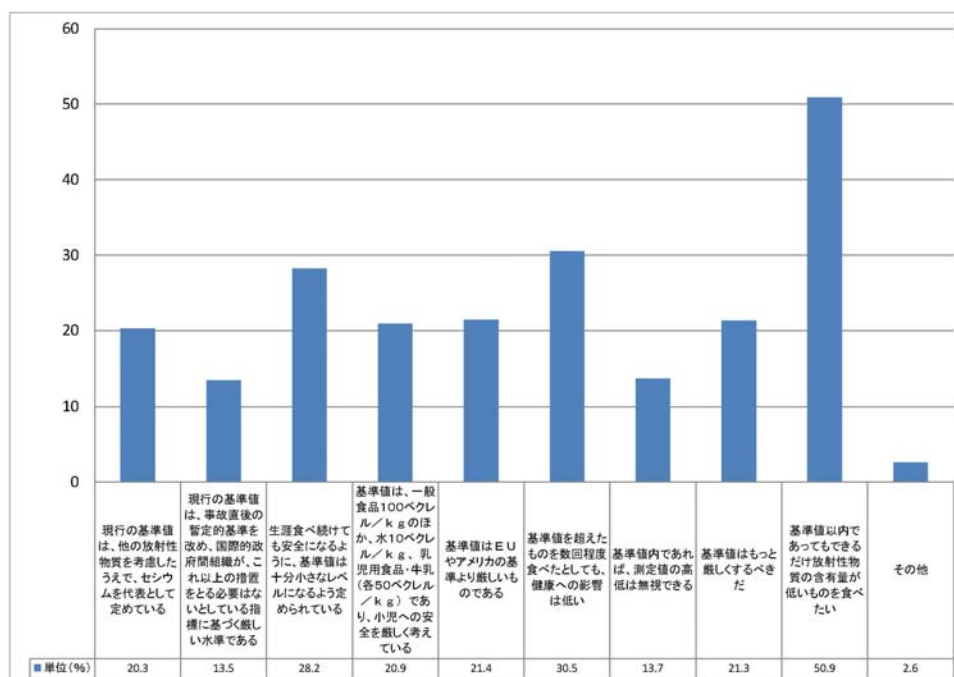
Q4 あなたは出荷制限されている食品の品目と地域についての情報をどこから得ていますか。(回答はいくつでも)(N=5176)

出荷制限に関する情報は、「テレビやラジオ」が47.6%、「情報は特に得ていない」が36.3%、「新聞や雑誌」が32.5%である。



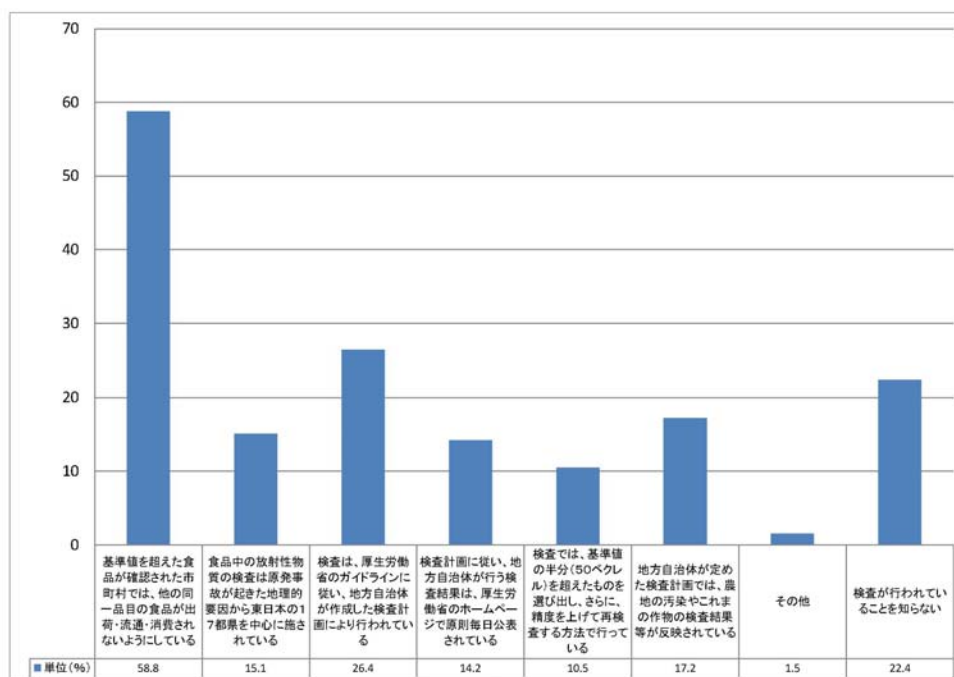
Q5 食品中の放射性物質の基準について、知っていることや思っていることを教えてください。(回答はいくつでも)(N=5176)

食品中の放射性物質は基準値以内のものであれば安全であるが、「基準値以内であってもできるだけ放射性物質の含有量が低いものを食べたい」が50.9%である。この他、「基準値を超過したものを数回食べても健康影響は低いことを知っている(思っている)」が30.5%、「基準値は十分小さなレベルになるよう定められている」が28.2%である。

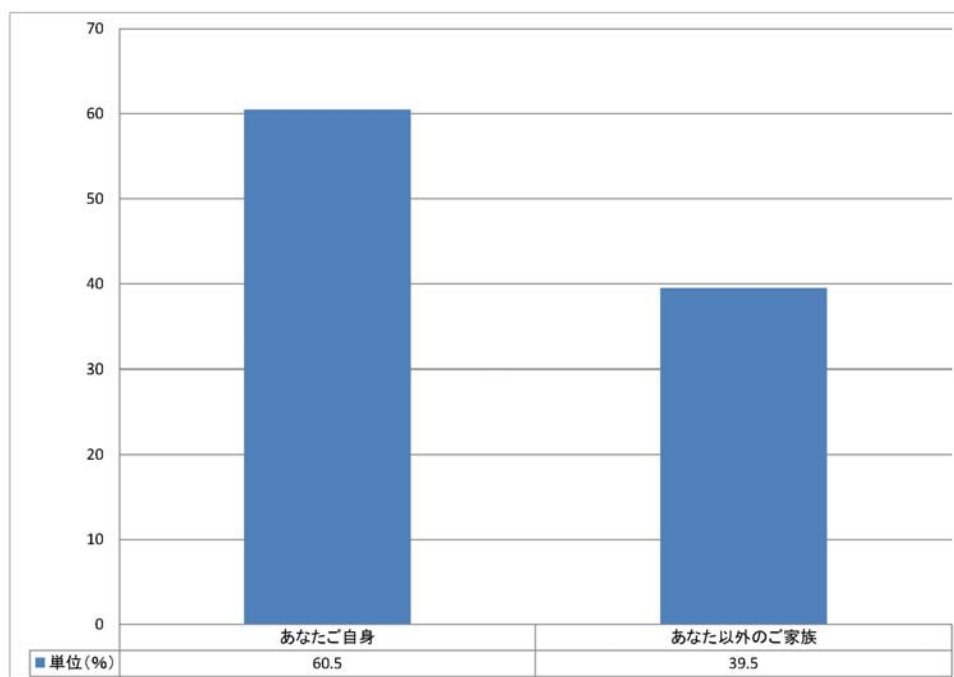


Q6 食品中の放射性物質の検査の情報について、知っていることを教えてください。
(回答はいくつでも)(N=5176)

食品中の放射性物質の検査情報について、「基準値を超過した食品は市町村で、流通・消費されないようしていることを知っている」が58.8%、「検査は厚生労働省のガイドラインに従い、地方自治体が作成した検査計画により行われていることを知っている」が26.4%である。一方、「検査が行われていることを知らない」が22.4%である。

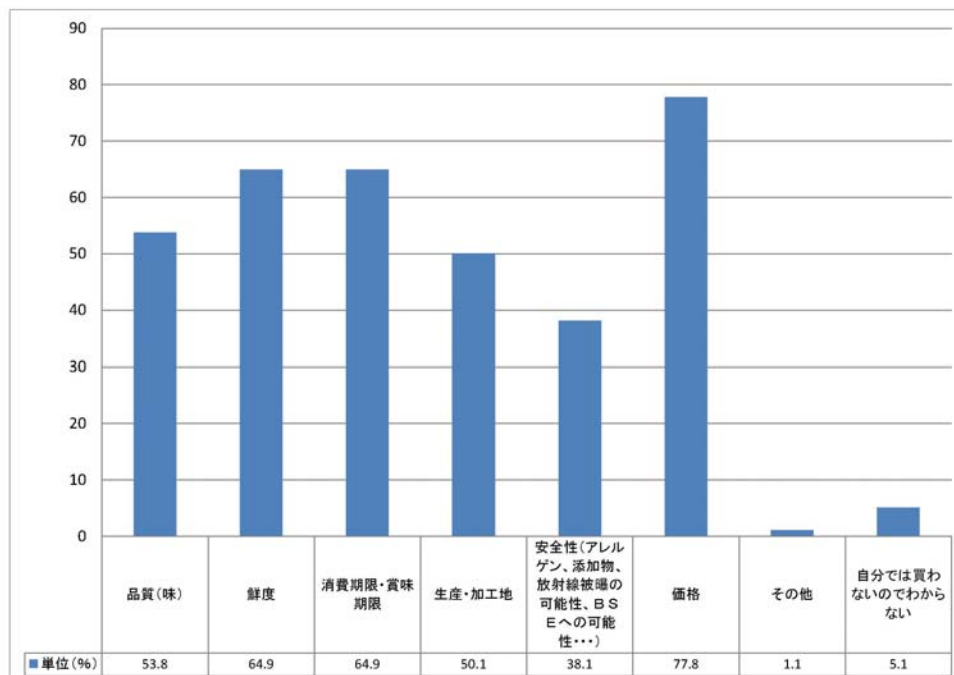


Q7 主に家庭用の食品を買っているのはどなたですか。(回答は1つ)(N=5176)



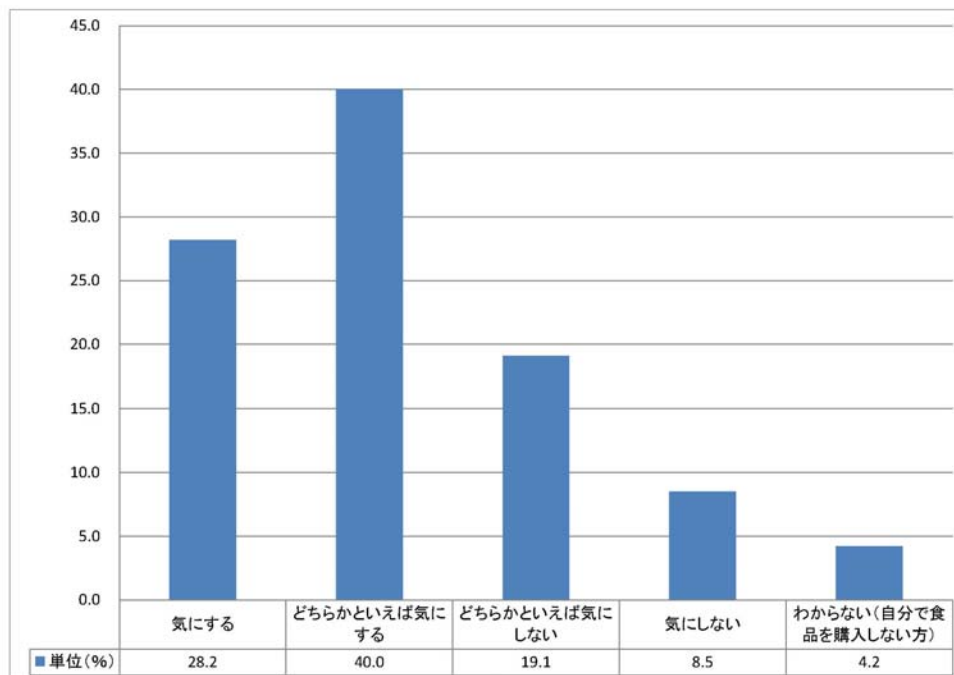
Q8 あなたは、食品を買うとき、何を重視していますか。(回答はいくつでも)
(N=5176)

食品購入時の動機について、「価格」が77.8%、「鮮度」、「消費期限・賞味期限」が各64.9%である。



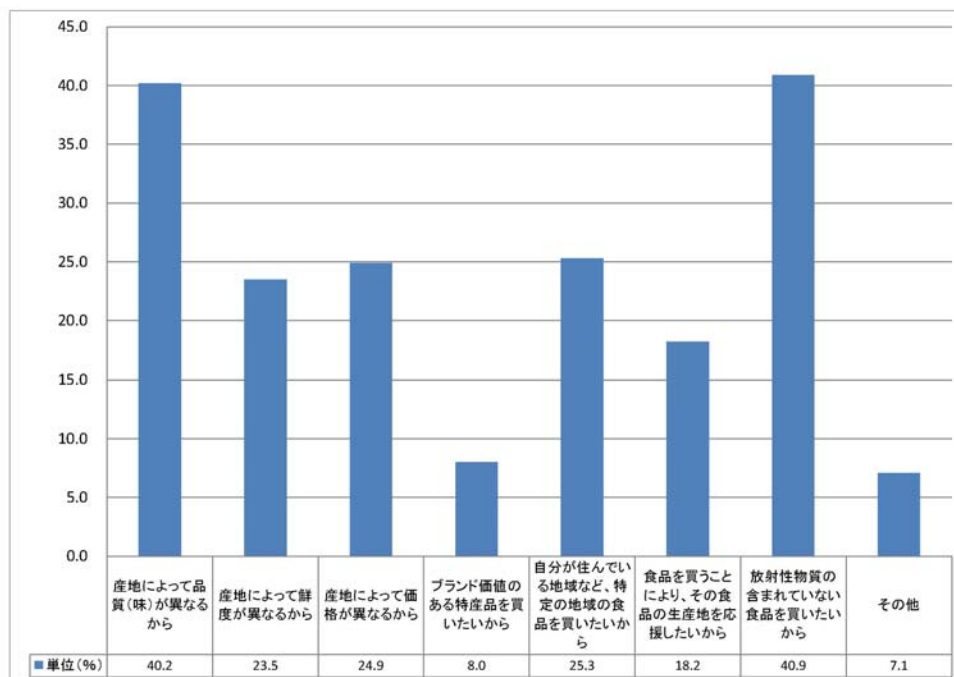
Q9 あなたは、普段の買い物で食品を購入する際に、その食品がどこで生産されたかを気にされますか。(回答は1つ)(N=5176)

食品購入時に産地を「どちらかといえば気にする」が40.0%、「気にする」が28.2%である。



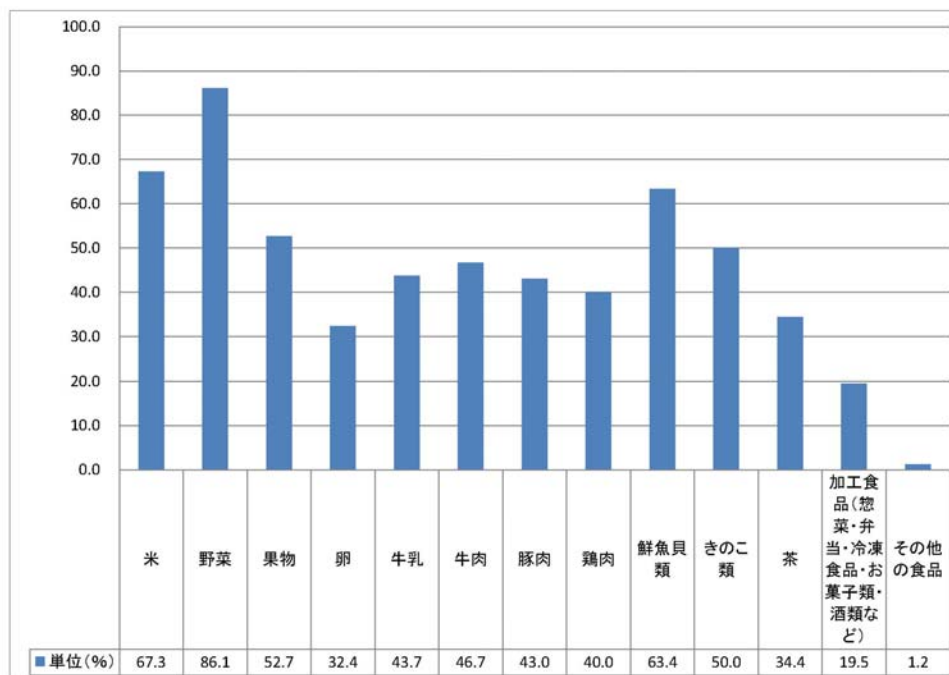
Q10 あなたが、その食品がどこで生産されたかを気にされるのは、どのような理由からでしょうか。(回答はいくつでも)(n=3531)

Q9(N=5176)で、産地を「気にする」「どちらかといえば気にする」と答えた方について、その理由は、「放射性物質の含まれていない食品を買いたいから」が40.9%、「産地によって品質(味)が異なるから」が40.2%である。



Q11 特に産地に注意している食品を次の選択肢から選んでください。(回答はいくつでも)(n' = 1443)

Q10(n=3531)で「放射性物質の含まれていない食品を買いたいから」を選んだ方(40, 9%、1443人)について、特に産地に注意している食品は、「野菜」86.1%、「米」67.3%、「鮮魚貝類」63.4%である。

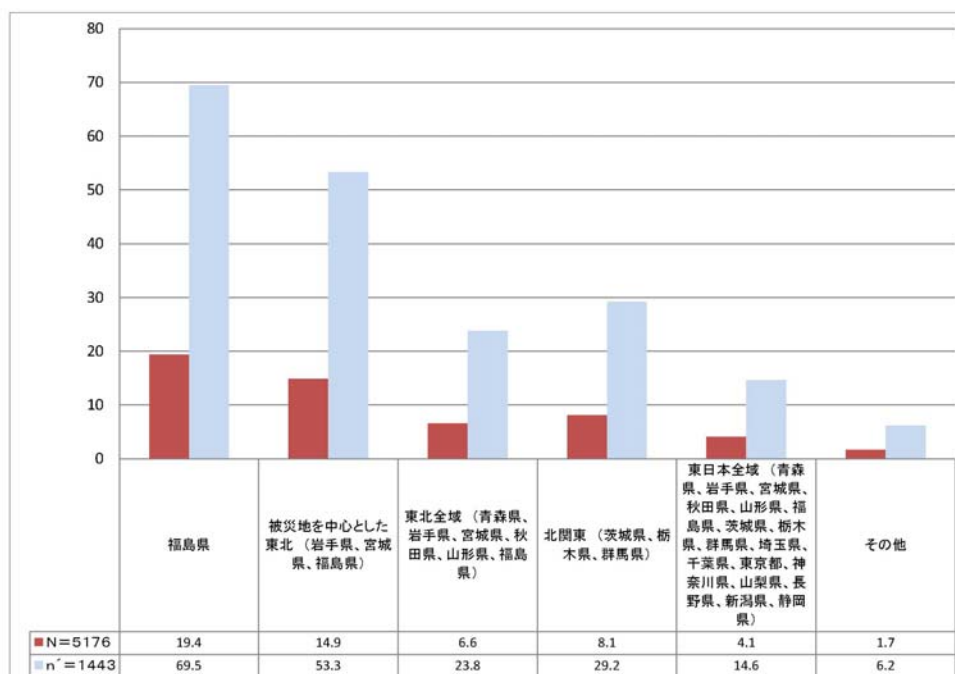


Q12 食品を買うことをためらう産地を次の中から選んでください。

(回答はいくつでも)(n´=1443)

福島県産品の購入をためらう方は、全体(N=5176)では2割以下(19%)が、被災三県(福島県、宮城県及び岩手県)産品の購入をためらう方は全体の1割程度(15%)がそれぞれ該当する。

Q10(n=3531)で「放射性物質の含まれていない食品を買いたいから」を選んだ方(40, 9%、1443人)について、産地を気にする・どちらかといえば気にすると回答し、放射性物質が含まれていない食品を買いたいと回答した方々の中では、「福島産」69.5%、「被災地を中心とした東北(岩手県、宮城県、福島県)」53.3%、「北関東(茨城県、栃木県、群馬県)」29.2%である。



Q13 あなたは、放射線による健康影響が確認できないほど小さな低線量のリスクをどう受け止めますか。(回答は1つ)(N=5176)

低線量の放射線リスクの受け止め方について、「現在の検査体制の下で流通している食品であれば受け入れられる」が36.9%、「十分な情報がないためリスクを考えられない」が22.8%、「放射性物質以外の要因でもがんは発生するのだから、ことさら気にしない」が21.7%である。

